

第4回琴浦町地方創生推進会議

日時：7月22日（水）

19:00～20:30（予定）

場所：役場本庁舎防災会議室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 報告事項

4. 協議事項

① 琴浦町版総合戦略全体像一覧（案）について 19:15～

② グループごとの協議 19:20～

③ グループでのまとめ 20:00～

④ 各グループからの発表 20:10～

⑤ その他

5. その他

次回会議日程 月 日（ ） 時～ 時

場所 役場本庁舎防災会議室

6. 閉 会

担当：企画情報課 山根、佐藤

電話：0858-52-1708

ファクシミリ：0858-49-0000

e-mail：sousei@town.kotoura.tottori.jp

琴浦町地方創生推進会議 委員名簿

任期：～H29.3.31

組織または団体名		氏 名	
琴浦町観光協会		杉山 佳奈	
山陰合同銀行		黒田 明宏	
鳥取銀行		金尾 保彦	
琴浦町商工会		米原 洋一	
JA 鳥取中央農業協同組合		福山 昭	
大山乳業農業協同組合		亀田 進一	
赤碕町漁業協同組合		林原 秀子	
琴浦町区長会（東伯地区）		桑本 賢治	
琴浦町区長会（赤碕地区）		和田 實	
琴浦町女性団体連絡協議会		光本 みゑ子	
琴浦町 PTA 連合協議会		前田 良二	
〃		井東 千恵子	
琴浦町保育園保護者会連合会		朝倉 俊之	
〃		田栗 恵子	
琴浦町社会福祉協議会		吉田 美由紀	
鳥取大学		小野 達也	
琴の浦高等特別支援学校		中谷 由美	
新日本海新聞社		佐伯 健二	
琴浦まちづくりネットワーク		四門 隆	
〃		山本 伊都子	
琴浦町農業青年会議		前田 知也	
琴浦町手をつなぐ育成会		安谷 潔美	
琴浦町青年団		川本 倫枝	
連合鳥取中部地域協議会		信組 昌孝	
鳥取県森林組合		御古 修	
鳥取県琴浦町担当市町村コンシェルジュ (中部総合事務所農林局副局長)		米田 和晃	
事務局	事務局長		小松 弘明
	琴浦町地方創生推進室	室 長	遠藤 義章
		主 査	山根 利恵
		係 長	佐藤 陽一

第3回琴浦町地方創生推進会議（結果）

日時：平成27年6月25日（木）19：00～21：00
場所：本庁舎 防災会議室

1. 参加者	委員24人、事務局4人、米田コンシェルジュ
2. 欠席者	●●●
3. 会長挨拶	他の町でも同じような議論が進み、それぞれの真剣度が問われる時期に入った。今日はグループ討議となるので、よろしくお願ひします。
4. 副町長挨拶	今日は3回目で、このようなスタイルとした。 昨日まで町内9カ所を意見交換で回り、そこで出た意見もつけている。今までこちらから一方的に話をしてきたが、今日は皆さんの知恵をお借りしたい。よろしくお願ひします。
5. 内容	<p>●会長 ○委員 →事務局</p> <p>新委員の紹介 鳥取県中部森林組合より推薦、御古修さんを紹介。</p> <p>① 琴浦町人口ビジョン、総合戦略骨子（素案）について → 事務局から説明</p> <p>● 人口ビジョンと総合戦略（素案）について、何かありますか。 ではグループ討議になりますが、今後のイメージを示してもらえれば話しやすいのでは。</p> <p>→ 今日のグループ討議では、委員の皆さまがどのような考えを持っているのか意見を聞きたい。それには大勢で話すよりも、テーマに分けて話した方がより効果的だろうということで設定した。ただ、10月策定という時間のなかで、引き続き班でやっていくというのも大変だと考えており、今日は委員の方の意見をお聞きし、それを役場の方で、町民の方の意見や職員の意見を含めたかたちで、次の推進会議では1つの戦略のたたき台を出したいと考えている。このテーマ別の意見交換会は、今日でひととおり終わると考えていただきたい。事務局はそのような考え方です。</p> <p>●テーマごとに分かれているが、各テーマの議論に狭めるのではなく、全体を幅広く議論するうえでも、グループに分かれた方が話しやすいという理解でよいか。テーマごとで細かく話してもよいし、少人数の方が意見を出しやすいだろうということで、全体を話してもらってもいい。</p> <p>→ 事務局より、グループ意見交換会の流れを説明。</p> <p>② 総合戦略全体像等についての意見交換 4つのグループで意見交換を実施</p> <p>③ 各グループより意見発表・まとめ</p> <p>「育む」グループ 結婚・・・婚活を前に出すと人目を気にして集まりにくいので、パーティー形式や町外で実施。子どもを間に挟んで一緒に活動するとカップルが生まれやすいそうで、「子ども好き集まれ」という企画などはどうか。町内企業と町内企業で</p>

企画し、そこで結婚に至れば祝い金を出す。
子育て・・・保育園のサービスの充実。土日祝日は料金が低い。通常保育並みに料金の見直し。「保育に欠ける」要件を緩やかに。思い切って1人目から保育料無料へ。医療費の助成を高校生まで拡大。児童クラブの長期休暇中の給食サービスを実施。
地元愛の育成・・・地元ボランティア指導者により自然体験を企画・サポート。そもそも親に地元愛があれば、それが子どもたちへ伝わる。親子で地域で遊べる企画をしては。
情報発信・・・十分にPRできているのか。上手にできていない。テレビのコマーシャルをしたり、フェイスブックなど若者が情報収集しやすいところに発信する。印象に残るイメージ戦略。
その他・・・空き家を譲りたい人もあるので、いっそ町外から住まれた方に、何年か住んだら差し上げるというようなことも思い切ってしてはどうか。

「創る」グループ

大きな目標としては、農産物を含む琴浦町の製品のブランド化。最終的には利益を得て、組織や地域が永続的に継続する根幹となるもの。特色ある、品質の高い製品を作る。
女性に受けるようなネーミング、感性、デザインを外部のコンサルタントに依頼して立ち上げ、外に出しても「なかなかいいのではないか」というものをつくる。他業種との兼ね合い。
売れるものを作るためには品質を上げていく。量も必要なので、仲間を増やす（町外からの人の仕入れ）。量の確保については、高齢者も利用して量を増やしていく。

「輝く」グループ

輝く町の共通イメージを持つ。住民自身が楽しそうに幸せそうに暮らしている、本人がそう思うことも大事だが、外の人からそう思ってもらえることも必要。幸い「琴浦町は元気だな」と思ってもらえているようで、それを伸ばす。
町の良さをもっと知らせる必要がある。町民自身が町のよさを知るようなツアーを計画。町内各所に説明している地元の人がいて、観光地もいいがその人も面白い、そういう人を育てることも大切では。
高校・大学から帰ってこないことが大きな課題。若い人に琴浦町のよさや「コトウラ暮らし」の幸せなところを教えていないのでは。そこを知らせていく。
町出身の大学生などに細かい情報提供ができないか。そういう世代が年間何千人もいるわけでないので、人が少ない強みを活かして、一人ひとりに就職に関わる催しなど、細かな情報提供をしてはどうか。
琴浦町に住んでいる人がそういうイメージで輝けば、交流人口や移住定住も増えてくるのでは。
計画全体のとらえ方で、5年で一定の成果を出さないといけないとあるが、あまり拙速な取り組みばかりでなく、長い取り組みで成果の出るものもあり、平行して取り組むべきでは。

「根づく」グループ

若者のIJUターン・・・第一には働く場の確保。空き家の活用ではリフォームの費用助成（200万程度）があれば。町営住宅ではコーポラスを5年間無料にし、その間に家を建てたり次を探してもらい、帰ってきたときにすっと入れる場所の確保。
子育て支援・・・保育料金の見直し（第1子から半額）、病児保育の見直し。
退職世代の移住・・・積極的な希望はしない。

	<p>安全安心なまちづくり・・・部落内での共助、思いやり、助け合いやコミュニケーションが大切。買い物ネットや病院の送迎で地域の世話役をつくり、お礼は商品券で。デマンドバスの整備。</p> <p>自主防災組織の強化・・・組織強化のための連合会の設置や組織の拡大。</p> <p>→ひととおり発表が終わったが、聞いてみたいことはないか。会が終わった後に時間のある方は、各グループの内容を見て回ってほしい。</p> <p>●今回はグループワークの試みだったが、各グループの発表も素晴らしく、琴浦町民はやっぱりすごいと感じた。今日の意見をこれからどのように生かすのかを含めて、最後に事務局でまとめを。</p> <p>→この意見交換の内容は、役場内部で検討をしたうえで、7月の推進会議では戦略のたたき台を示したい。その中で、もう少し原案を揉んでいただき、8月末には素案をまた皆さんにお示しし、意見をいただいて最終的に作りこんでいきたいと考えている。</p> <p>→スケジュールがタイトなところもあり、今日の話も少し短かったかもしれないが、こういうことで進んでいるという種を今、蒔かせていただいているところ。</p> <p>次には町の職員も具体的なところを書き込んで、次回は皆さんに検討いただくたたき台を作りたい。言い足りなかったところもあるかもしれないが、どんどんご意見をいただきたい。</p>
	<p>次回日程について →7月22日（水）19：00から防災会議室で開催する。</p> <p>21：00 終了</p>

【検討用】琴浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像(案)

◎将来像:ひとが輝き まちが輝く コトウライフの創生

基本テーマ	基本目標	重点項目	主な施策	事業名	現状・課題・効果	事業内容	推進委員からの意見等	
コトウライフで育む	地域の宝である子どもを産み育てやすいまちづくり	出会いと結婚の希望をかなえる	縁結び・婚活事業の充実	定期開催！カップリングパーティー	出会いが欲しいが、周囲でやってるイベントはノリが重く参加しにくい。 【重い理由】 ・お見合い回転寿司 ・自己紹介カード ・会費高い ・大げさなイベント感	町内飲食店で定期的なカップリングパーティーを開催。 (いろんな異性とご飯食べたり遊んだりできるのは独身のうちだけ！逆にそれを活かしたい！)		
		子どもを産み育てやすい町づくりの実現	(保育料軽減等による)子育て世代の経済的支援	給食費助成、高校通学費助成事業 奨学金制度整備	子どもの貧困が問題視されている。 教育費の負担感により多子家族構成が育まれない。多人数家族による生きがい形成を育むことを促したい。	・学校給食費助成 ・高校通学費助成 ・就学支援助成の拡充 ・地域寺子屋の創設 ・奨学金償還助成 ・入学祝い金給付 ・空き家入居家族特典制度 ・中学校通学費無償化		
				高校生へのバス・JR定期代助成	子どもの年齢が小さいときはいろいろな助成があるが、大きくなるにつれ子どもにかかる経費も大きくなるが助成制度があまりない。 本町には高校進学で町外へ出ることが多く、定期代などの負担が大きな負担となる。	高校通学におけるJR定期代の一部を助成する。		
				義務教育期間の医療費の無料化				
				奨学金制度の拡充	現在、県内の医療関係に就職した場合で(大病院を除く。)は、奨学金の償還を免除されているが、県内企業に就職すれば、どの業種も対象とすることで、県内就業への一助とする。	奨学金償還助成		
				コトウ育英資金貸付事業	町内企業に就職する学生に対し、無利子貸付を実施。	町内金融機関が貸付を行い、町内企業就職者のみ利息部分を町が補填する。		
				奨学金返還助成	進学時に県外に転出し、そのまま就職する者が多い。Uターン促進の一事業として若年層の負担軽減策として奨学金返還の一部を助成する。 この事業については、県も検討を行っているため、対象者の範囲などの検討が必要。	大学卒業後のUターンを促進するため、大学時に借入れを行った奨学金返還の一部を助成する。		
				乳児(0歳児)家庭保育支援給付事業	0歳児から保育園等に預け、仕事復帰する傾向が多くみられるようになってきている。保育士不足。	家庭で0歳児保育実施する保護者に対し、支援給付金を支給し経済的支援と家庭保育を推進する。		
				出産祝い金の助成拡充	少子化対策に繋がる。	出産祝い金の増額。		
				保育料の軽減	第1子保育料軽減事業	第2、3子以降については、保育料の軽減事業を実施している。	多子出産の契機となるよう第1子から軽減する。	

基本テーマ	基本目標	重点項目	主な施策	事業名	現状・課題・効果	事業内容	推進委員からの意見等			
				保育料の無料化	第1子を一人預ける世帯に全額負担していただいている負担が多いが、3人同時入所だと半額で済む制度である。近隣の市町村と比較しても琴浦町の保育料は相当安いのに、保育料の基準額表を見ると高く見える。子育て世代の転入を促す。	保育料を全額無料化し子育て世代の負担軽減を図り、広くアピールする。				
				保育料単価の改訂	多子世帯の減免もあるが、経済的支援を打ち出すのであれば、保育料の改訂も検討する。	保育料金の減額				
				保育料・放課後児童クラブ無償化	第2子半額・第3子無償を第1子まで拡大、児童クラブも無償化。	影響額95,714千円(H27当初予算比較)				
				保育制度の充実	保育士待遇改善事業	保育士不足。	保育士の待遇改善により、他市町との差別化を図り、保育士不足を解消することで、保育の充実を図る。			
					産後ヘルパーの派遣	通勤の都合上居住地としている等、町内及び近隣市町に親族がいないという若者世帯もあり、産後に十分な支援を受けていない。	産後一定期間、ヘルパー派遣に要する費用を助成する。			
				楽しく子育て・親育て支援	すくすくことうらプロジェクト	子育て世代は、子育てに対して、負担感がある。発達支援の必要な子どもが多い。	ペアレント・トレーニング すくすくキッズ(早期療育)園・学校の発達支援巡回指導・研修 発達支援コーディネーターの配置			
				放課後児童クラブや休日保育等による勤労世帯の子育て支援	放課後児童クラブ充実事業	夏休み等長期休暇のみ利用希望の方はあるが、定員等から利用不可としている。	長期休暇のみ対象の児童クラブを1箇所開設する。併せて、障がい児の受入も行う。			
					病後児保育(全園)の充実	現在の制度では利用が難しい。	全子こども園・保育園で病後児保育の対応を行う			
					病児保育の充実	現在の制度では利用が難しい。	町内1医療機関で実施する。			
					育児休暇取得向上事業	育児休暇取得補助金に加え、企業優遇措置を創設し育児休暇取得推進を図る。	育児休暇取得補助金に加え、入札要件の優遇などによる企業支援。			
					育児ボランティア事業	高齢者が集まるサロンを要望する声が多くあり、時間をもてあますことがおおいことから、その方たちに公民館などを活用して、休日保育など短時間子どもの面倒を見てもらうような仕組みがあればいいのではないか。ファミサポの集団版のようなイメージ。 預かる側のニーズは把握していないため、そのような方がいるかどうかの掘り起しが必要と	地域ボランティアを募集し、休日などそこに子どもをあずけ子育て世代の負担を軽減する。			
					子どもの能力を伸ばす教育環境の充実	安心して学べる学校環境の整備	魅力、特色ある教育体制整備 特色ある部活動形成	教職員の多忙状態打開のための人的体制を整備する。	・部活動専門指導員設置 ・家庭訪問相談員設置 ・少人数学習支援員設置	

基本テーマ	基本目標	重点項目	主な施策	事業名	現状・課題・効果	事業内容	推進委員からの意見等			
				小中一貫校開校	ゆとりをもった教育環境で、子どもの能力を伸ばす。					
				学力向上視力検診強化事業	視力の悪化は黒板の文字が見えなくなり、集中力の低下により勉強への意欲も減退。	視力検査及びその後の矯正等のフォローを実施し学力向上を図る。				
				発達障がいを持つ児童・生徒の支援						
				モジュール学習等による子どもの能力開発	魅力と特徴を持った学校教育活動	教育は移住者を集めるコンテンツとなる。スピーチ、プレゼンテーション力の向上が必要。意欲、集中力を持った学習展開により、様々な能力向上を目指す。	・フラッシュ(モジュール)学習拡充 ・大学生による夏期講習 ・少人数学習推進 ・技術等修得学習推進 ・自己アピール学習展開 ・保護者研修会(学齢別スキルアップ学習)			
				(ふるさとを支える人づくり)						
				ふるさとを愛する教育の充実	ふるさとへの誇りと愛着の醸成	ふるさと学習	農・工・商・水産業が盛んなまちでありながら子ども達が日常係ることが無くなっている。体験活動を増やし、ふるさとのよさをしっかり認識する学習活動が求められている。ふるさとで生き抜く人づくりを目指す。	・総合学習におけるふるさと学習 ・社会科におけるふるさと学習 ・セカンドスクール、山村留学 ・農業体験学習、田んぼアート ・わくわくコトウラ職業体験(中学生フィールドワーク) ・ようこそ先輩学習(大学生生活用)		
						ことうらだいすきっず育成事業	鳥取県には高校卒業後の進路として大学等が少なく、東京圏や関西など県外への流出が多い。大学等卒業後その地で就職し、Uターンしない若者が増加することで、琴浦町の社会減も進行している。これらの要因のひとつとして、琴浦を知る機会が少ないことによる郷土愛の不足が考えられる。郷土愛の育成として、学校教育でも行っていくことは必要であるが、カリキュラム等の関係で制限されることが考えられることから、土日や長期休業を活用して、観光・産業といった方面から「琴浦町」を知る機会を	ガイド付きの観光、農業青年会議と連携した農業体験、町内企業の会社、工場見学、こどもパークとの協働による遊び体験を行う。 ・事業内容の一例 年間を通じた農業体験、親水公園を活用したマスつかみ大会、大山乳業・アゴかつ・鳥取部品などの会社訪問、船上山・大山滝・斎尾廃寺跡等の観光など		
						世代間交流による活性化事業	・郷土の歴史文化を次世代に伝えることで、文化財の価値が評価され、世代間の交流により地域活動の活性化を図る。	子どもや親子を対象にしたアートキャンプ(造形体験)		

基本テーマ	基本目標	重点項目	主な施策	事業名	現状・課題・効果	事業内容	推進委員からの意見等
			文化・芸術を通じた子どもの心の育成	カウベル音楽ようちえん～大きなホールがみんなの教室だ！～	子どものころから音楽などの芸術に触れる機会の積極的設定と、琴浦町の魅力となる独自の文化芸術活動の創生。町の魅力となる「町独自の体験型ソフト事業」の確立と、全国への活動PRによる琴浦の新しい魅力づくり。	カウベルホール及び周辺地を舞台に、幼児を対象にした音楽を主とした実体験活動を展開、子どもの頃から音楽などの芸術に触れる機会を積極的に提供しつつ、子どもたちの心の育成と、芸術家育成を通じて、町の魅力となるような文化芸術活動を作り上げていく。 具体的な活動内容は、カウベルホール指定管理者と協議しながら、町内保育園・こども園との連携を図りながら、下記の様なプログラムを開発していく。 ・年間を通じての楽器演奏、歌唱体験プログラム ・地域資源(田んぼ、山林)を活用した各種体験教室プログラム ・子どもの自主性の涵養につながる、芸術を通じた心の育成プログラム	
			「遊び」を通じた人づくり推進	「居場所づくり」事業	乳幼児期から屋外で体を動かす習慣の定着。 町外からの「遊び」の来町。	生活圏エリア及び発達段階に応じた子どもから青年期の居場所となる遊び場を確保する。 1 幼児・児童期：遊具及びフィールドアスレチックなどの設置。(町で1箇所中心的な施設を設定すると共に、町全体で効果的な配置を検討。(小学校の遊具を含む。)) 2 青少年・青年期：スケートボード場、マウンテンバイク場・サバイバルゲームフィールドなどの屋外フィールド設置。(施設・土地の有効利用)	
コトウラで創る	安定した就労環境の整備と魅力あるしごとづくり	自然の恵みからなる農林水産業(＝次産業)の振興	がんばる農家のチャレンジ支援と担い手の育成	遊休農地の解消及び活用	荒廃農地の増加。	NPO法人等による農地活用促進	
				新規就農者支援 地域おこし協力隊等の倍々計画	アグリスタート研修を終えた方の就農受入支援のメニューが少ない。 ・農業従事者の高齢化 ・農業後継者不足 ・耕作放棄地の増加 IJUターン者が就農する場合、資本金がなければ非常に困難である。少しでも支援施策が充実している市町村を選択する傾向にある。	・アグリスタート研修等の受講者への支援 ・新規就農者支援(町独自策) ・地域おこし協力隊契約期間満了後の支援	

基本テーマ	基本目標	重点項目	主な施策	事業名	現状・課題・効果	事業内容	推進委員からの意見等		
		地元産業の発展と新たな展開	琴浦ブランド化の推進と販路拡大 既存事業所への支援	芝産地の活性化を目的とした生産機械開発事業	生産者の高齢化に伴い、芝の生産面積は減少傾向にある。これは、芝の作業が重労働であることもひとつの要因である。	本町の主要農作物である芝の生産拡大を図るため、省力・高能率の収穫出荷機械を開発する。			
				畜産クラスター事業	町の主要産業である酪農は、生産者の高齢化や後継者不足により生産・出荷される乳量が年々減少し、乳量確保が早急な課題となっている。	畜産クラスター協議会を設立し、畜産農家をはじめ、大山乳業や酪農組合など地域ぐるみで連携・結集して取り組むことで、高収益型の畜産体制を実現する。			
				まいう牛乳の町ことうら	おいしい牛乳があまり知られていない。	牛乳、バター、チーズと地元食材を使った食品の提供できる店舗開拓、企業支援。			
				ことうら商品販路開拓事業	町では商工会等を中心として首都圏で販路開拓を行うための特産品をブラッシュアップしてきたが、販路開拓・拡大へと繋がっていない。 これを打開すべく、業務委託により、東京都の『とっとり・おかやま新橋館』へ専門職員を配置し、琴浦町特産品の販路開拓を行うとともに、町の認知度向上による観光誘客を促進し、地方創生を実現する。	地域経済の活性化及び町のPRを図るため、東京に専門職員を設置し関東圏での販路拡大を行う。			
				海外への販路開拓事業	アベノミクスによる金融・財政・構造改革の取り組みにより経営環境の向上へ追い風が吹いている。しかし、地方の中小企業に景気回復を実感するには至っていない状況。そこで売値の高い海外へ販路開拓を行う旅費等への補助を求める強い要望があった。	町特産品を海外（東アジア）に対し販路開拓するため、町内企業と外国企業・団体とのマッチング支援を行う。海外への販路開拓に対する交通費など対象経費の1/2を補助する。			
				販路拡大を進める事業所への支援	生産スキルは持ち合わせていても販売能力に欠ける。一方、販路が見つかっても供給量が不足し取引中止となる状況に陥る場合もある。 生産から物流販売まで一貫した足腰の強い農業を目指し、農業後継者を増やす。	・事業者自らが販路拡大に努める場合の助成			
				地元企業イメージアップ支援	町内企業ブランド化事業	町内企業のイメージを高めることにより、収益性の向上を図り、優れた人材確保を図る。	金融機関と連携した新規商品の開発や業種開発の支援を行う。		
				魅力あるしごとの創出	企業誘致の推進と起業・創業の支援 企業誘致の推進 起業・創業の支援	町内企業他業種転換事業	公共事業の減少が進む中で、町内事業者の他業種転換を図り産業の育成と雇用の確保を目指す。	金融機関と連携し建設業者などの農業・介護・食・小売などの他業種転換と資金的支援を行う。	
						琴浦町起業支援事業	アベノミクスによる金融・財政・構造改革の取り組みにより経営環境の向上へ追い風が吹いている。しかし、地方の中小企業に景気回復を実感するには至っていない状況。これまで町内企業において、起業時の初期投資に対し、支援の要望が強かった。	起業する事業者に対し開設にかかる事業所、施設の増改築費など対象経費の1/2を補助	

基本テーマ	基本目標	重点項目	主な施策	事業名	現状・課題・効果	事業内容	推進委員からの意見等	
				若者の起業促進	田舎にいながら都会と同等レベルの生活(商売)ができるようになるまでの準備期間の支援が必要である。	起業する若者への支援		
				起業支援	スキル、ユニークなアイデアを持った方による琴浦町の魅力を発掘、発信していただく。(規格外の野菜等捨てるモノに付加価値をつけて売り出す斬新な企画立案能力のある方への支援)	起業家への支援		
				新たなしごとの創造	里山資源省エネ活用	電気・石油に係る経費は県外あるいは国外に支出される経費であり、生きたお金にならない。	農業に係る電気・石油などのエネルギーを地元間伐材などの木材に転換し、新たな産業を興す。林業者も儲かる仕組みづくり。	
					コトウラエネルギー創造事業	ペレットを活かしたまちづくりの実施。ペレット部門雇用増加と町内木材利用の拡大を目指す。	金融機関と連携し赤碕清掃のペレット事業の拡充を目指す。	
				仕事を通した生きがいづくり	ワーキングコーディネーター設置事業	未就労人口の減少、生きがいの創造。障がいを持つ若者・ニート引きこもりの若者などの就労サポートを行い、地域全体での活力につなげる。	知的障がいや精神障害などの障がいを持つ若者やニート・引きこもりの若者に対して、町独自で就労支援コーディネーターを設置し、企業と未就労の若者の架け橋とする。また、県の就労支援との連携・タイアップなど広域的な連携も目指す。売れる作業所商品を目指すため、消費者ニーズとマッチした商品開発コーディネートを行う。	
					障がい者雇用推進事業	約80名の障がい者が福祉の事業所で就労訓練を受けておられ、訓練費として毎月2千万円程度の費用を要している。障がい者雇用の推進により、訓練費が軽減され、障がい者自身の収入も増えることが見込まれる。	雇用の受け入れ先となる事業所の発掘と訓練中の障がい者のしマッチングを行う。同時に、企業に対して障がい者雇用の啓発を実施。	
					琴浦ふれあいファーム(仮称)(生活困窮者対策)	27年度から生活困窮者自立相談支援事業を行なっている。相談者の中には、傷病も無くまだ働ける・働きたいという方がいるが、年齢、体力、経験、精神面等で支援や配慮が必要な方が多い。中々一般就労には至らないため、その就労先が無い状況がある。車を持たない就労希望者が町内で働く場を得やすい環境を創る必要がある。	地域資源の山林、農閑地、空き地、空き家(小屋)等を活用。できるだけ集約し旧自治体ごとに琴浦ふれあいファーム(仮称)を創る。例として野菜、花の栽培、家畜の飼育、ふれあい牧場の経営(鶏、うさぎ、鴨、やぎ、ポニー等小動物の飼育)を行なう。技術を持った退職者(事業者)の指導を受ける。	
				スキルをもつ人材の還流と就労支援	インターネット販売の支援	優れた技能者の製品の販売支援。		

基本テーマ	基本目標	重点項目	主な施策	事業名	現状・課題・効果	事業内容	推進委員からの意見等
コトウラで輝く	ふるさとの魅力を誇り、生き生きと輝くひとづくり	豊かな自然と文化を生かした観光振興	自然・伝統・文化の継承と地域資源の活用	町の伝統料理の発掘及び活用	琴浦の食の掘り起こし。	古くからある伝統料理を若い人に継承することで地域の活性化を図る。	
				町魚「アゴ」活用事業	町の魚である「アゴ」は、年々漁獲量が減りつつある。このアゴを活用した取り組みを行い、水産振興と観光振興を図る。	漁船を使ったアゴすくい体験、アゴを使用した新しいメニュー開発など、観光とあわせ町魚のアゴをPRする。	
				地域伝統継承事業	地域の人々が繋がり、子育て世代が帰省したくなる地域づくりにより人口増を図る。	・伝統行事の公開 → 各地区の発表会 ・後継者育成 → 子ども会との連携、子ども会地区見直 ・地域の伝統芸能・工芸・行事の復活と継承(三本杉餅、鏝絵(左官技術)、虫送り(笹津のまんどい)、木地工芸)	
				コトウラ文化継承事業	光のこて絵などの文化的技術を現代生活に溶け込ませ、若者に売り込む。	こて絵等の文化・技術を今の生活に取り入れることで、ことうらの文化を再認識し、新たな活用を図る。	
				「琴浦さんとめぐる琴浦町紹介」事業	琴浦町の発信ツールの整備による認知のアップ。ふるさとを知りふるさとを愛する「琴浦人」の育成。 町内の歴史・文化資源の周知を行い、郷土への愛着と誇りを育む。	町内の文化財や名所・旧跡などを含めた町内紹介を行うため、「琴浦さん」が紹介するプロモーションビデオ・携帯アプリなどを作成。琴姫×琴浦さん ・物産館ことうら内の設置モニターに文化財や観光地の紹介映像、または写真を流す。 ・指定、登録にかかわらず地域の歴史や文化資源をまとめ、パンフレットや看板等で周知する。	
				わが町の宝再発見事業	普段見慣れているが、本当は大変貴重な文化的財産の価値を認識していただくとともに、未だ知られていない文化的財産発見の機運を高め、本町観光振興の一助とする。	既存の寿大学を活用し、町内に有する文化的財産(建造物、史跡など)の見学・研修会を開催する。	

基本テーマ	基本目標	重点項目	主な施策	事業名	現状・課題・効果	事業内容	推進委員からの意見等
				地域の「たから」の活用事業	古くから守られてきた歴史建造物を紹介することで、地域住民の普及意識の啓発に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史建築物と地域住民との繋がり ・歴史建築物の掘起し、記録保存し ・歴史建築物の公開することで地域住民の意識啓発 ・史跡まつり(野外コンサート・サンドアート) ・史跡や文化財建造物内でのコンサートや観劇 ・船上山の山岳信仰を絡めた、町内の道祖神(サイノカミ)を巡るウォークラリー ・昔の地名(小字等)の看板設置 ・八橋往来に提灯や竹灯籠を並べるキャンドルナイト ・かつての赤碕宿の町並みを活かしたイベント(ex.福井県若狭町「熊川いっぷく時代村」) ・空き校舎を民俗資料館・文化財整理・保管施設としてリニューアルを図る。 	
				物産館ことうらの周辺整備	駐車場としての単なる通過点を改善する	<ul style="list-style-type: none"> 休憩で立ち寄った人を町内にめぐらせる取り組みとして、一般道との相互乗り入れができるようスマートインターチェンジの設置。また、休憩施設として遊具、ドッグラン等の施設を整備する。 琴浦町の玄関として飲食店や公園などを整備。 	
				ワールドトレイルズカンファレンス事業	人口急減・超高齢化・地域経済の疲弊 定住人口1名減⇒年間消費額124万円減⇒海外旅行者24人必要	鳥取県で開催されるワールドトレイルズカンファレンス等の費用を負担する。	
				特急列車の赤碕駅停車と観光マッチング 赤碕駅前観光案内所整備 アウトドアコーディネーター設置(養成)		<ul style="list-style-type: none"> スーパーはくとの赤碕駅停車と一体的に、駅前に観光案内を整備。駅に降り立って即、レジャー、観光をスタートできる。 アウトドアでは、海～山までの自然を満喫するレジャーを提案するコーディネーターを配置。レジャーメニューの作成、駅からすぐアウトドアを楽しむことができるシステム構築(荷物預かり、コースの提案、引率、宿泊所の案内など)。 旧以西小学校または船上山少年自然の家を拠点としたアウトドア・宿泊型体験事業。またはスポーツ合宿所として地域で受け入れ。 上記を観光協会とアウトドアコーディネーターが手配、調整、運営する。 	
				地域資源を活用した観光振興による交流人口の増加			

基本テーマ	基本目標	重点項目	主な施策	事業名	現状・課題・効果	事業内容	推進委員からの意見等
				アーチェリーのまちづくり事業	生涯スポーツとしてできるアーチェリーを活用し、大会誘致による町外からの集客と地域の活性化を図る。 アーチェリーを親しみやすくし、競技人口を増やす。大会誘致。 来客による地域活性化。	県立アーチェリー場の誘致、またはサッカー場をアーチェリー場として兼用できるような改造で県内唯一のアーチェリー場とする。 サッカー場の観客席を拡充させる。 中国地方や近畿の大会などを誘致し、施設の活用と、町外からの集客を図る。	
			地域資源を生かした健康づくり推進	文化×健康ウォーキング	点在する文化財の活用推進 八橋往来などのウォーキングコースを設定し、歴史を体験できるような説明紹介する。 地域の取り組みのPRや活動の場の提供による活性化。 海のある町並みを生かした観光ポイントの作成。	各エリアで文化的なつながりを持つ文化財でウォーキングコースを設定する。 各文化財や経路で説明を提供し、歴史や当時の様子を感じながら歩ける環境を作り出す。 ウォーキングと合わせて、ことうらのグルメポイントも紹介し、おいしく運動できるようにする。 文化財ウォーキング大会を開催。	
		女性(人)が輝き、活力を生むまち	ワーク・ライフ・バランスの実現と女性の活躍促進	琴浦の女性は、ステキ	女性就業率が高い。 管理職の女性登用率が低い。	女性のコスト意識で町を見渡すサークル。 良いうわさ話の情報発信おばさんクラブ。	
		協働によるまちづくり	まちづくり団体への支援による地域活性化の推進	ことうら自慢応援事業	住民の自主活動を活発化する 現在ある協働事業は敷居が高すぎるため、もっと条件をゆるくすることで取り組もうとする意欲を高める。	自由な発想の元、住民が主体的に企画する活動に対する助成(人的・経済的支援)を行う。	
			自治会活動の推進によるコミュニティーの醸成	自治会活動支援事業	自治会で活動する財源を確保することで、自治会のやる気を起こし元気を再生する。	自治振興補助金の見直しを行い、自治会活動のメニュー化を進めやる気のある自治会に対し交付金を支給する。	
			自治パワーの醸成支援	新しいまちづくり推進事業	地域のまとまりの最小単位である行政区の活性化による町の活性化男女共同参画の推進。 補助期間終了時点での集落数:80(現在164) ※参考集落数:北栄町66、湯梨浜町74、倉吉市222	少子高齢化による集落人口の減少、集落役員担い手不足などで集落機能が低下している集落が、近隣集落との合併等による規模拡大を図る場合に、男女共同参画推進を条件に合併に必要な費用を補助し、住民自ら行う将来を見据えた集落機能維持活動を奨励・推進する。 ・合併しようとする2集落以上の任意の集合体(協議会)への補助 (3年間の時限措置) ・役員へのクォータ制導入などの男女共同参画推進に資するしくみ導入の検討を補助要件とする。	
				地域おこし協力隊の活用	協力隊の存在感が薄い。	住民へのアピールする場を提供し、活性化を図る。	

基本テーマ	基本目標	重点項目	主な施策	事業名	現状・課題・効果	事業内容	推進委員からの意見等	
		ふるさとを支える人づくり	地元リーダー育成の推進	団塊の世代が活躍する場づくり	団塊世代が次々退職を迎え地域に帰ってきているが、地域で活動している姿が見受けられない。			
				ふるさと創生塾	地域の活力を創造するためには、住民の結束が必要であり、それらを引っ張るリーダーが必要。	リーダー育成のため、講師を招きジグ活動のすばらしさを伝えたり、実習を行う塾を開催する(広域的開催でも…)		
				人材育成塾		各産業やまちづくりのリーダーの育成、育成講師の発掘、高齢者が持つさまざまなスキルの活用。		
				子どもが主役のまちづくり支援	青少年輝きプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 子ども会の「親ども会化」 単位子ども会人数の減少 青少年の社会参画推進の必要 	<ul style="list-style-type: none"> モデル子ども会の設定。子どもの手による子ども会を目指し、子どもの企画運営に基づくことと保護者研修会受講を条件に子ども会の取り組みに対し、必要な費用を補助する。 子ども会の適正規模化 少子化にともない、子ども会活動ができない子ども会が活動できるようにするため、子ども会の合併を見据えた、協議検討を行う。 青少年議会として中学生、高校生が意見を出せる機会の設定。 町行政や町課題に対して青少年の意見討論をする場を設定し、青少年の意欲や町に対す 	
				町民への新たな出逢いによる輝き支援	「みんなで合宿しよう」事業	町外からの合宿の場として総合体育館などを活用してもらい、地域のスポーツの活性化と、町内の食べ物や宿泊施設の活性化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> 町外からの合宿誘致につなげる。 町民のスポーツ技術の向上。 町外からの客による、地域の活性化。 	合宿を誘致するにあたり、半日程度町民との指導・交流などをしてもらうことで、利用料の一部を減免する。(スポーツ教室や一緒に合宿、吹奏楽の演技披露など) <ul style="list-style-type: none"> 町民にスポーツなどとふれあい、指導を得られる場を提供する。 東伯総合公園周辺一体を合宿地域と考えて、平岩記念館だけでなく、宿泊施設や食べ物などの情報を提供し、地域施設とも連携した合宿場所作りを進める。 	
	人権が尊重され生き生きと輝く人づくり	人権意識向上による尊重し合えるまちづくり						

基本テーマ	基本目標	重点項目	主な施策	事業名	現状・課題・効果	事業内容	推進委員からの意見等
コトウラに根づく (活きる)	だれもが健康で心豊かに暮らせるまちづくり	若者のIJUターン支援	コトウラ体験等による移住・定住促進	住みやすい琴浦事業	<p>他町・他県と比較しながら人が住む場所を選ぶ基準に下記のことあげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琴浦町と町民の人柄に触れることができる。 ・知り合いができる。(いざ引越してきて頼れる人ができる) ・琴浦町に住むことに対し楽しいイメージができる。 	<p>他県の人を対象に、琴浦町の生活を実感する、短期の合宿を行う。</p> <p>町民の方にお願ひし、チューターとなってもら。</p> <p>1日目開会、交流会(参加者とチューターで交流会)</p> <p>2日目町内めぐり</p> <p>3日目仕事体験(農業、林業、水産業、事務仕事、工場の仕事など希望にそれぞれ希望に別れて取り組む)</p> <p>4日目仕事体験(同上)</p> <p>5日目地元との交流(地区公民館で歓迎会)</p> <p>6日目波止の祭りなどで楽しむ</p> <p>7日目閉会</p> <p>※チューターには同年代の同姓の人になってもらい、チューター2人・参加者2人の1グループ4人で1週間を過ごす。</p> <p>※夏休み期間中等、親子参加の場合、学校・子ども会と協力して交流会をひらく。</p> <p>※合宿場には空き家など実際すむイメージができるところが好ましい。</p> <p>※参加後、参加者には継続して琴浦町の情報提供を行う。</p>	
				<p>・週末滞在型市民農園の設置(空き家と遊休農地の活用)</p>	<p>・琴浦町にIJU定住希望を持って、理想的な住む家が見つからない実態がある。</p> <p>・「空き家情報は、件数が少ない」程度の良い古民家は財産であるが、様々な事情があり、年に1、2度しか使用しない家でもなかなか手放さない。</p> <p>危険家屋に繋がる。</p> <p>・「市民農園の推進」都市圏で週末農園が流行っている。ただ、都心でも少し移動すれば農地が多くあり、わざわざ鳥取までなくても近場で土にふれ家庭菜園をすることが出来てしまう。同時に土地が無く抽選から外れる状態でもある。狙いは、足をのばしてでも琴浦町に来ていただけるような魅力(付加価値)をつける。</p>	<p>・新規就農者への住宅支援の拡充(移住先の住宅条件として、農機具を格納する格納倉庫等が必要なことから、一戸建て、空き家を希望される方が多い。)</p> <p>・空き家提供者への支援古民家を提供して下さった町外者への支援を行い、空き家バンクの充実を図る。</p> <p>・相場賃貸料の軽減分を補填</p> <p>・市民農園実施協力者への支援(技術指導・生産補助していただいた方への支援を行う。)(利用者への近況状況報告等への支援)</p> <p>・市民農園利用者支援(同時に借り手にも町内でしか使えないガソリン割引チケットや宿泊割引チケットをプレゼントする。)(人の流入が増えれば経済効果は生まれる。)</p>	

基本テーマ	基本目標	重点項目	主な施策	事業名	現状・課題・効果	事業内容	推進委員からの意見等	
			移住・定住者への優遇税制	新築・中古住宅の固定資産税の減免措置	琴浦町新築住宅等に対する固定資産税の減免に関する規則の制定。	平成27年4月1日公布 平成27年1月2日より適用		
			空き家の活用・家賃助成等による移住・定住促進	家の新築・購入費助成			マイホームを持つ意志の有る人を対象に、他町に無い特典・費用助成などを行うことで、琴浦町を定住の地として選定してもらう(地域等を限定しない)。	
				宅地情報提供事業	琴浦町で家を建てようと考えても分譲地はきりぎりまたは槻下に限られるため、民間を含めた分譲地情報を町のホームページで公開する。	琴浦町で家を建てようと考えても分譲地はきりぎりまたは槻下に限られるため、民間を含めた分譲地情報を町のホームページで公開する。		
			定住希望者への就職支援	13歳のハローワーク事業	中学生から町内で就職することへのイメージを持ってもらう。	中学校授業実施・町HPへの情報提供		
				コトウラ企業紹介事業	町内企業を知らない町民が多い。親や子どもが知ることで町内就業への一助とする。	HP・町報などによる町内企業紹介		
				町内企業の紹介	町内企業の求人情報や事業内容を常に情報発信し、子どもやその親に知らせることで町内就業への一助となる。	HP、FB、町報等で通知したり、成人式等で企業紹介する。就職相談会等を開催する。		
				職業紹介所開設事業	求人情報等を把握しておらず、移住者等への雇用のマッチングができていない。県では倉吉に若者仕事ふらざを設置し対応を行っているが、琴浦町との連携が不十分であり、今後の地方創生事業を行うにあたっては、リアルタイムに雇用情勢を把握する必要があると思われる。	労働局へ届出を行い、オンライン端末を設置し開設。運営は、専門員を新たに雇用し、主に若年層の相談を受ける。		
				琴浦町版「合同説明会」	地元で住む・働く若者が少ない。	新規学卒者をターゲットに県内企業の合同説明会を開催する。 学生が就活を始める初期段階(大学4年の4月)に開催する。		
				町出身者への県内就職促進	琴浦町での就職を希望しながら、就職先がないと感じる出身者が多い。これは、町内及び鳥取県内の就職情報が出身者へ届いていないことが考えられるため、就職情報の提供を行う。 また、保護者に対しても就職情報を提供することで、親から子への情報提供を促し、Uターン者の増加が見込まれる。	アンケート調査によって得られた情報を基に、町出身者が希望する情報を提供するとともに、その保護者を対象として、町内をはじめ鳥取県内での就職情報を提供し、Uターンを促進する。		
				琴浦町ふるさとレター便事業	町出身者が都会へ出て行って帰ってこず、20代前半でその後の居住の場所が決まる現状がある。	20歳前後を対象に町・就職情報を郵送し、Uターンを促進する。		
			地域の拠点の整備促進					
			安心・安全で暮らせるまち	公共交通ネットワークの整備	交通弱者支援	交通空白地域の解消	バス運賃無料化。バスネットシステム利活用の促進。	

基本テーマ	基本目標	重点項目	主な施策	事業名	現状・課題・効果	事業内容	推進委員からの意見等	
				交通確保事業	公共交通機関の確保を図った上で、近隣の移動に乗り合い事業を導入する。	近隣住民が協力し、乗り合い事業を展開(道交法などの問題があるようだが特区申請なども検討しては)		
				公共交通空白地域の乗り合わせシステム		地域で希望する人、提供する人を登録し、コーディネートする。謝礼として、一定回数実施した場合は商品券など進呈。		
			自主防災組織の強化					
			図書館を活用した情報提供	【見直し】 図書館発情報提供事業	図書館を休日も開いている行政情報窓口として活用。貸出者数でなく、図書館利用者数の増加を目指す。行政からの情報が図書館にも集中する体制づくり。	行政施設である図書館を活用し、行政からの情報発信を、図書館を活用してさまざまな事業や補助、支援などの情報を提供していく。図書館に来れば新しい情報が入手できる体制を作る。 子育て世代や高齢者世代が必要な本などの情報を収集し、それぞれの生活で必要とする情報が、図書館に来れば入るという体制づくりを目指す。		
		退職世代の移住・定住の希望の実現		コトウラCCRC事業	認知症対策先進地である琴浦町で人生の後半戦を豊かに暮らす。(古布庄小学校活用)	PFIを活用した事業実施が可能か検討が必要。また、介護保険料負担などの財源の裏付けがなければ取りやめ。		
		健康長寿日本一を目指すまちづくり	健康に生きるまちづくりと認知症予防	安心してウォーキングできる環境整備 (全国1歩かない鳥取県から、全国1歩行数の多い町を誕生させよう)	ウォーキングを習慣化することで生活習慣病の発現を遅らせることが期待されているが、歩道が狭い・夜間は照明がなく危険など習慣化が難しい。	歩道(道幅や舗装は勿論、歩くと音楽が流れる仕掛けがあると面白い)や夜間照明(太陽光発電を活用)を整備し、ウォーキングを楽しむ人たちを増やす。		
				毎日1万歩運動			歩数計と安全たすき貸与。30万歩など、段階をクリアした際に商品券進呈。100万歩達成で商品券千円分など(確認の方法等は検討)	
				生涯健康づくり事業	①個人健康ニーズの高まり ②健康寿命伸長	1 町内を生活圏エリア内ごとに運動スタジオ及びサロンスペース(喫茶等)を備えた施設整備(開き校舎等、既存施設の改修や地区公民館活用)及びシニアスタッフ(有償ボランティア)の常駐。 2 屋外スポーツの雨天・冬期使用な運動施設の新設又は既存施設の改修。(グランドゴルフ・フットサル・テニスなど多目的使用) 3 所要施設の統合による管理の集約化。 4 屋外運動施設での、健康づくりのための屋外ストレッチ器具などを、体づくりコースとして設置。 5 ウォーキングできる環境づくり、昼夜利用できる各屋外運動施設(外灯設置)や海辺コースの設定。		

基本テーマ	基本目標	重点項目	主な施策	事業名	現状・課題・効果	事業内容	推進委員からの意見等
				健康寿命日本一事業	日本一の健康寿命を目指すことを公言して、健康事業に取り組む。	認知症予防事業の更なる推進と、健康を分かりやすく数値化し目標を明確化した事業展開を行う。	
				いづれ行く道 (子育て世代の健康習慣づくり)	子育て世代は、自分自身の健康への関心が薄くて、老後が、イメージできない。	生活習慣病対策充実。ことら健康ポイントラリーの活用。新わくわく琴浦体操普及ウォーキングの普及	
				いまからできる (60歳～74歳:前期高齢者)	高齢者クラブの加入率の低下。	新わくわく琴浦体操普及、習慣化 仲間づくり(ミドルシニアサークル、ボランティアサークル)	
				まだ間にあう (75歳以上:後期高齢者)	要介護認定率17.5%(H27.6末現在) (効果)認定率が下がる。	年1回物忘れ検診(タッチパネル検査) 新わくわく琴浦体操普及、習慣化	
		人がやさしい琴浦町	おじいちゃん、おばあちゃんとふれあおう	子ども達が高齢者と交流する機会が少ない。 高齢者と児童・生徒の交流事業を実施する学校が少ない。 27年度3校開催。	全小中学校で認知症サポーター養成講座キッズの開催。 介護予防教室での高齢者と児童生徒の交流。 徘徊模擬訓練を通して、地域での認知症患者対応の学習。 保育園・こども園児、琴の浦高等特別支援学校生徒と高齢者の認知症カフェでの交流会(第1弾 出張琴カフェ)		
			安心して暮せることら	高齢者SOSネットワークの構築できてない。 多世代の交流が少ない。	防災マップの作製、充実。 見守り隊(愛の輪推進員・福祉委員、民生児童委員等)の協力体制の強化 中井旅館で、地域の住民・高齢者と琴の浦高等特別支援学校生徒の認知症カフェでの交流会		
			同窓会応援事業	事務等の労力がかかる。これを軽減する。	ふるさと納税や移住等をPRする。参加者1人に1000円助成		
			役場ワンストップ窓口		全体のわかるスペシャリスト職員の育成		
			アンケート調査	これまで新成人へのアンケートは行ってきたが、町報、ハローワークの求人情報の提供にとどまっている。転出者に対しては行っていない。 町を離れる人が何を理由として離れるのか、どのような施策を望んでいるかの調査を行い、今後の施策立案に活用する。	琴浦町への転入者及び琴浦町からの転出者、町出身者で県外転出した方などを対象としてアンケートを実施し、町の施策への満足度や今後どのような町の情報が必要かを調査し、Uターン促進や転入増を図る。		